

【補足】 SFP水大規模漏えい時の周辺公衆の被ばく評価における線源条件について

- ・ 貯蔵中の使用済燃料について、燃焼時間（燃焼度）、冷却年数及びその体数を整理したものを第1表に示す。
- ・ 線源強度については、第1表を基に、冷却年数は短く、燃焼度は大きくなるように保守的にグルーピング化して評価した上で設定している。

第1表 SFPに貯蔵されている燃焼時間、冷却年数ごとの貯蔵体数

（単位：体）

燃焼時間（燃焼度）	冷却年数（年）					
	0～8	8～9	9～10	10～12	12～15	15～
0～10,000時間 (0～13.88GWd/t)	0	8	0	0	0	0
10,000～20,000時間 (13.88～27.75GWd/t)	0	28	0	0	1	1
20,000～30,000時間 (27.75～41.63GWd/t)	0	49	9	17	22	21
30,000～40,000時間 (41.63～55.50GWd/t)	0	36	36	24	2	0
合計	0	121	45	41	25	22

第2表 評価で使用する燃料集合体グルーピング

（単位：体）

代表燃焼度	冷却年数（年）				
	8	9	10	12	15
13.88GWd/t	8	0	0	0	0
27.75GWd/t	28	0	0	1	1
41.63GWd/t	49	9	17	22	21
55.50GWd/t	36	36	24	2	0
合計	121	45	41	25	22